

《学校教育目標》 求め 鍛え 高め合う

【第2次東白川村教育ビジョン 方向と具体的方策】

～少人数時代に即した、東白川ならではの授業づくり～

- ・生徒一人一人の学力を確実に高める指導
- ・ふるさととのかかわりを大切にしたい、個別探究、課題解決型の指導
- ・学力定着を支える家庭・自主学習の充実

生徒の実態 (よさ:○ 課題:●)

- 真面目に授業に向かいながら、与えられた問題に粘り強く取り組み、自分の力で解決しようとする事ができる。
- ペア交流やグループ交流で自分の意見や考えを積極的に伝える生徒が増えてきた。
- 学習習慣や基礎基本の定着について個人差が大きい。
- 交流が一部の生徒で行われており、話し合いのルールや学習リーダーの育成ができていない。
- 仲間と考えを深めたり、自ら進んで追究しようとしたりする意識が弱い。

願う生徒の姿

『多様な学びを通して、主体的に物事を追究し、学ぶ楽しさを実感できる姿』

これからの現代社会をたくましく生き抜くためには、身近な事実・事象を見つめ、その真理や真実を求める過程において自らの思考力を育み、粘り強く追究したり、自分の思いや考えを深めたりして、より良い結論を導き出そうとする力が求められる。事実や事象を追究していくための各教科の見方・考え方を身に付けることで、生徒が知的好奇心や探究意識をもち、主体的に学び、学ぶ楽しさやおもしろさを実感することを強く願い、本研究の本質を求めていく。

研究主題

自分の考えを豊かに表出し、仲間と深め合う生徒の育成
～学ぶ楽しさを実感できる授業づくり～

研究仮説

学ぶ楽しさを実感することが、主体的に学ぶ姿を増やすことにつながる。単元出口の活動に向け、一単位時間の学びを積み重ねていくことで、「できた」「もっとできるようになりたい」という生徒の主体的な学びを生み出し、その姿勢が学習理解を深めていくと考える。

さらに、自分の考えをまとめたり、表現する方法を自身が選択したりすることにより、自分の思いを豊かに表現できる生徒が育つ。また、表現する場や仲間と交流する場を設けることで、表現する力を高めるだけでなく、仲間の考えから様々な見方や考え方を知ることができる。それにより、自分自身の見方・考え方を広げ、自分の考えを深めることにつながっていくと考える

【研究内容1】

主体性を育むための指導の工夫

- (1) **見通しをもたせる単元出口の設定**
 - ・表現方法を選択できる単元出口の設定
 - ・一単位時間のつながりを明確化
- (2) **個の高まりを実感する学びの保存と活用**
 - ・タブレット端末のよさを活かした学習指導
- (3) **学びを実感できる終末の工夫**
 - ・自己評価や振り返り、評価問題など、一単位時間の学びを振り返る時間を確保する

【研究内容2】

思考力を高めるための指導の工夫

- (1) **学習形態の工夫**
 - ・ペアやグループなど本時付けたい力に合わせて学習形態を工夫する
 - ・学習リーダーの育成
- (2) **論理的な思考のパターンの活用**
 - ・本時付けたい力に合わせた学習過程の工夫